

## 第IV章 効果的な取組とするために

園と小学校の教職員が子どもの姿を語り合ったり、お互いの指導内容や支援の方法などを情報交換したり、学びの連続性・一貫性について協議したりすることにより、お互いの教育・保育の良さを確認し、相互理解が深まります。

以下、園と小学校教職員の合同研修の例を紹介します。

### 研修例 1

# 入学前後の子どもの姿をもとに教育・保育を考える

園で行っている生活や遊びを通して大切にしている点・小学校の生活や学習で大切にしている点などについて、互いに協議することで、相互理解を深めていくことができます。

### 《研修の進め方》園・小学校教職員の合同研修会の例（KJ法）

- 附箋に各自の考えを書く。

園の教職員・・・「園で入学前に重点的に育てたい姿」

小学校の教職員・・・「入学までに育てほしい姿」

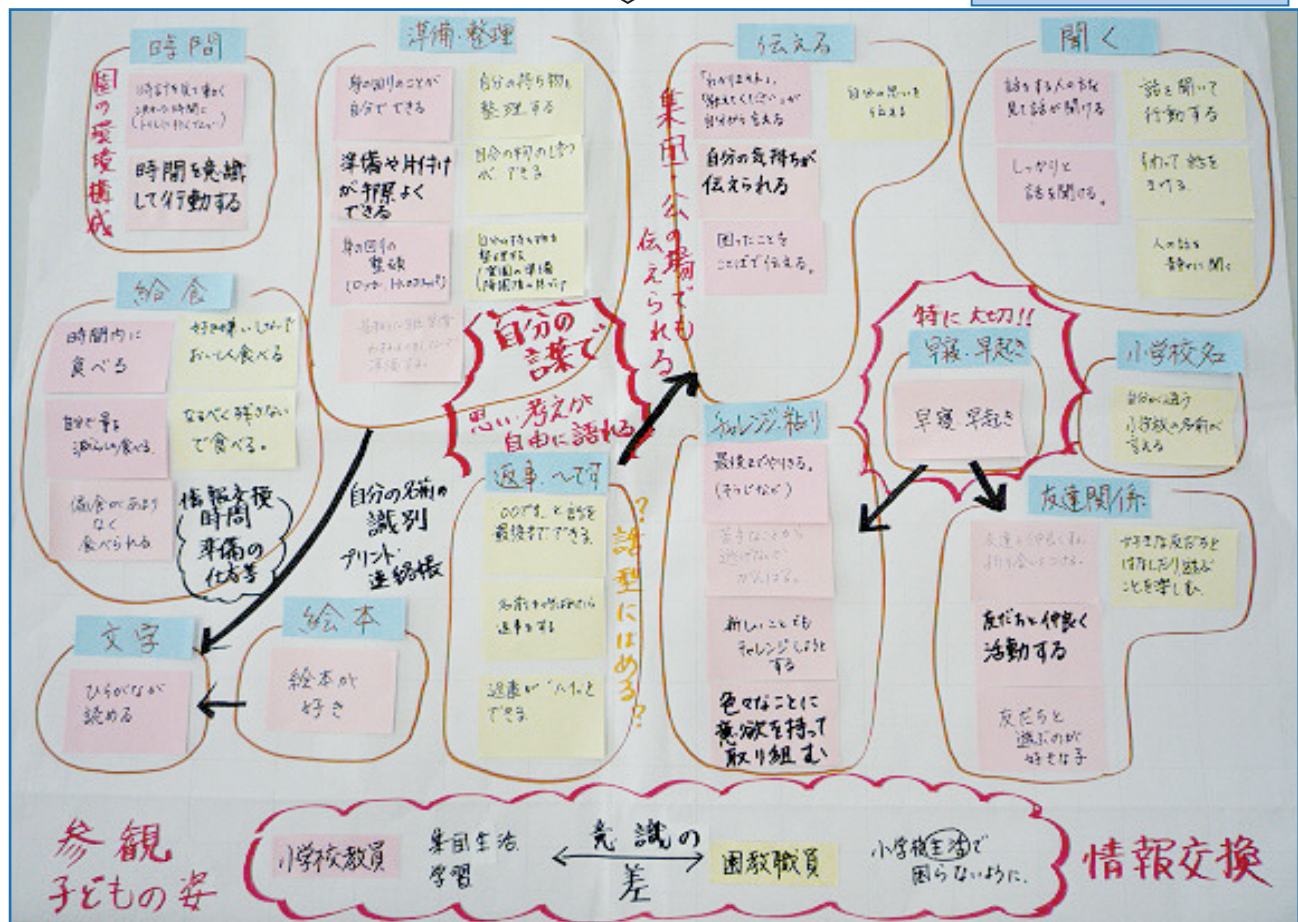
- それぞれの意見を理由もつけて話し合う。

園

小学校

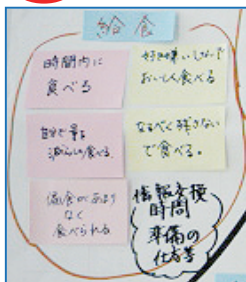
協議をまとめた模造紙

相互理解を深める  
研修例①②③へ



第IV章 効果的な取組とするために

# 1 ちがいがうまれる理由について考える。(例えば、「給食」について)



★園は「おいしく」「残さず」、小学校は、「時間内」となっているのはなぜ？

- ・園と小学校の教職員がそれぞれどんなことを大切に、どんな指導をしているのかについて話す。
- ・園と小学校の生活や学びを「つなぐ」ための指導のあり方を協議する。  
(「生活リズム」「登降園・登下校」等のテーマで話し合うこともできます。)

\* 「尊重すべき違い」(P7) を踏まえた取組を協議することにつながります。

# 2 園や小学校の生活や遊び・学習の内容等について、情報交換する。

★保育や授業で大切にしていることは何？

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「小学校学習指導要領」を紹介し合う。
- ・全体的な計画、教育課程、指導計画、デイリープログラム・生活時程等を紹介し合う。

\* 幼児期の教育・小学校教育の目標や内容を学ぶことが相互理解につながります。

# 3 園と小学校の今後の指導に生かすための協議を行う。(保育体験・授業体験後)

★お互いの指導方法について、「取り入れたい」「引き継ぎたい」「まねしたい」ことは何？

- ・保育体験・授業体験等で見つけた園と小学校の指導方法について紹介し合う。
- ・それぞれ大切にしている指導法、環境構成等について説明する。
- ・自園・自校における接続期の指導のあり方について考える。

\* 園と小学校での「個の育ち」「集団としての育ち」について共通理解することになり、その育ちをつなぐための指導の在り方を確認することにつながります。

園と小学校では、教職員の意識に違いがあることが分かりました。協議することで互いの教育・保育の目標や内容、指導方法等について理解することができました。

\* 研修参加者の感想より

園や小学校で大切にしていることや子どもの様子について協議するよいきっかけとなりました。小学校入学当初は、安心できる環境や人間関係をつくることが必要な理由が分かりました。

\* 研修参加者の感想より

◎お互いの教育内容や指導の重点、指導方法等について、相互理解を深めるためには、具体的な子どもの姿や実際の取組等をもとに協議することが大切です。

◎お互いの指導の重点や指導方法を知ることで、一人一人の子どもの育ちや学びがよく見えるようになり、園と小学校それぞれの教育・保育を見直し、改善することにつながります。



# 幼児期の教育と小学校教育の「資質・能力」のつながりを考える

幼児期の遊びの中で見られた学びの基礎となる力が、小学校以降にどうつながっているのか考える手がかりとして、保育・授業参観等をもとにして様々な研修会で相互理解を深めていくことができます。

## 《研修の進め方》園の教職員のための研修の場合【参考：◆例1◆】

園

- 保育（保育場面映像の視聴も可）を参観し、その一場面の幼児の姿から、幼児期に育みたい資質・能力について書き込みを行う。
- その内容について共有する。
- 育ちと学びの連続性などについて確認し、小学校へのつながりを大切にしたい保育について考える。

### ◆例1◆ 園の遊びの場面の姿で考える

平成29年11月担当者合同研修会（幼児教育センター・市町村等担当者計23名）協議のまとめ  
「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集・DVD」「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」より

#### 事例 4歳児 「みんなで『かえるの運動会ごっこ』をしよう」【幼児の行動から資質・能力を考える】

玉入れのかごをまっすぐに立たせたくて、何度も、何度もテープを貼ったり箱をたしたりして試行錯誤しながら粘り強く作るが、いくらやってもうまくいかない。長い時間の試行錯誤のあと、気付いた友達が手伝うことにより、安心した表情で一緒に作り出すようになった。



#### 幼児にとっての「試行錯誤」の意味・学びは

##### 知識及び技能の基礎

- ・箱の大きさや重さ、かごの高さを実感
- ・まっすぐの感覚（安定・不安定）
- ・空間認知
- ・性質を生かした素材選び
- ・材料の使い方、指先の使い方・

##### 思考力・判断力・表現力等の基礎

- ・バランスをとるための工夫を考える力
- ・となりのかごと比べる力、観察力、認知力
- ・違う方法を試す、よい方法を探る力
- ・手伝ってもらおうとうまくいかもという予測する力
- ・友達に伝える力

#### 上記の学びを支えたものは

- ①どうしても完成させたい、絶対作るという気持ち【意欲】【挑戦】【粘り強さ】【忍耐力】
- ②うまく作れないという感情【悲しさ】【葛藤】
- ③かごをまっすぐ立てたいという感情【目標】
- ④成功したら楽しめる、今までの経験からこうすればできるという気持ち【見通し】【自信】
- ⑤どうしたらできるかという感情【探究心】【試行錯誤】
- ⑥ここを任されている、自分が作るのだという気持ち【役立ち感】【責任感】
- ⑦友達と一緒に遊びたい、喜んでほしいという気持ち【願い】【人との関わり】【協同性】
- ⑧自分が完成させたら友達が喜んでくれるという気持ち【期待感】等

#### 学びに向かう力・人間性等（非認知的能力）



幼児の主体的な遊びが展開できるようにする教師の援助や環境の構成

◎事例の幼児の姿が見られるに至るまでの**遊びの経過**や思い等について、見取りに基づいたより丁寧な説明をしながら研修することが大切です。



◎**幼児期における資質・能力はそれぞれを切り離して考えるものではなく、それぞれが重なり合いながら身に付けていく力**です。

幼児期の主体的な活動である遊びを通して身に付けた力が、小学校の学びを支えていることがわかりました。「心が動く」遊びを大切にしていきたいと思います。

\*研修参加者の感想より

《研修の進め方》

園・小学校の合同研修の場合

園

小学校

【参考：◆例1◆・◆例2◆】

- 保育（保育場面映像の視聴も可）または小学校の学習を参観し、その一場面の子どもの姿から、資質・能力について書き込みを行う。
- その内容について共有する。
- 幼児期から小学校へつながる資質・能力について話し合い共有する。
- 育ちと学びの連続性などについて確認し、つながりを生かした保育・教育等について考える。

《研修の進め方》

小学校 小学校教職員のための研修の場合

【参考：◆例2◆】

- 小学校の学習場面の姿をもとに、幼児期からつながる児童の資質・能力について話し合い、共有する。
- 育ちと学びの連続性などについて確認し、つながりを生かした保育・教育等について考える。

◆例2◆ 小学校の学習場面の姿で考える

2年：算数「はこを作ろう」（東京書籍2下）

知識及び技能

- ・箱の面や辺、頂点の数について知る。
- ・正方形や長方形の面で構成される箱の形を理解し、それらを構成したり分解したりする。等

思考力・判断力・表現力等(数学的な考え方)

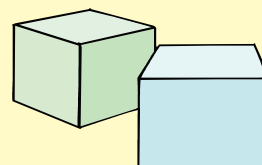
- ・図形を構成する要素（面の形、大きさ、辺の長さ等）に着目し、構成の仕方を考える。
- ・身のまわりのものの形を図形として捉える。等

学びに向かう力・人間性等(関心・意欲・態度)

- ・箱の形を作るために、線を引いたり、切ったり、テープで留めたりを繰り返す姿 (①④⑤)
- ・自分の箱を完成させたいという目標 (③)
- ・友達と教え合いながら一生懸命に作りあげようとする姿 (⑦)

上記の ( ) 内は、幼児期における「学びに向かう力・人間性」の数字

平成29年12月担当者合同研修会  
(幼児教育センター・市町村等担当者 計28名  
協議のまとめ)



4年：図画工作「ゆめのまちへようこそ」「日本文教出版」（3・4下）

知識及び技能

- ・表現方法に合わせて材料や用具を適切に扱う。
- ・前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせて表す。

思考力・判断力・表現力(発想や構想)

- ・表したいことや用途などに合わせて、形や色、材料などを生かしながらどのように表すかについて考える。

学びに向かう力・人間性等

- ・作りたいもののイメージをもち、箱を組み合わせたたり接着の方法を考えたりして試行錯誤する姿 (①②③④⑤)
- ・完成させるために一緒に相談したり、手伝ったりしている姿 (⑥⑦⑧)

上記の ( ) 内は、幼児期の「学びに向かう力・人間性等」の数字

平成29年12月担当者合同研修会  
(幼児教育センター・市町村等担当者 計28名  
協議のまとめ)



- ◎「学びに向かう力」が土台となって、小学校での学習を支えています。
- ◎学びの土台となる力は、幼児期に培った様々な力とつながっています。



### 研修例 3

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに子どもの姿のつながりを考える

園

小学校

#### 《研修の進め方》園と小学校の教職員合同研修の例

- 保育・授業（保育や授業場面映像の視聴も可）を参観し、そこで見られた子どもの姿について共有する。
- その姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らし合わせて考える。
- ◎小学校の学習を参観する場合、幼児期からつながる小学校での子どもの姿について話し合い、共有する。



育ちと学びのつながりや違いなどについて確認し、今後の取組を考える。

#### 保育場面の子どもの姿の記録

《エピソード記録：砂場での遊びの様子》

・・・A児は、「一緒に入れて」と他児に声をかけ★、一緒に川づくりを行う★ようになった。川づくりを行う中で、「ぼくが水をくんでくるよ。」

「○○ちゃんは、深く掘っていいね。」と役割分担をしたり★（中略）。

遊びが進み、温泉を作るといった共通の目的が生まれ、水をためる方法を考える★ようになった。

水の量や穴の深さ★等を試してみる★がうまくいかない。しかし、あきらめずに何度も挑戦する★。

しばらくすると、ナイロン袋に水をためることができるという経験を思い出し、A児は保育室のゴミ袋を使おうと提案★する。

- ★自立心
- ★協同性
- ★社会生活との関わり
- ★思考力の芽生え
- ★数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ★言葉による伝え合い



#### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

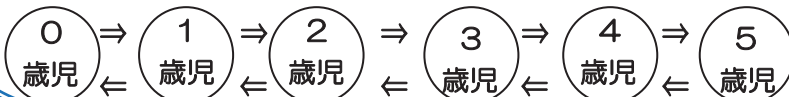
※参照 P 57, 58

小学校の姿へ

未満児	3歳	4歳	5歳	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
<p>○幼児の姿はそれぞれが分けて考えられるものではなく、関係し合っているものです。</p> <p>○ここでは、上記保育場面の主な姿を取り上げて分類しています。</p>				健康な心と体
				自立心
				協同性
				道徳性・規範意識の芽生え
				社会生活との関わり
				思考力の芽生え
				自然との関わり・生命尊重
				数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
				言葉による伝え合い
				豊かな感性と表現

★園での遊びの姿をこのように分類することにより、小学校就学を意識して子どもの育ちや学びの状況を把握することができます。

★5歳児だけではなく、4歳児、3歳児、2歳児、1歳児、0歳児の姿の相互のつながりを見ていくことが大切です。



例えば

★園と小学校における「自立心」の姿のつながり★

保育場面における★「自立心」の姿

園  
5歳児

あきらめずに何度も挑戦する姿

自信に満ちた表情で提案する姿

国語科の学習場面における★「自立心」の姿

小学校  
3年生

自分の考えを友達に提案、説明する姿

完成に向けて粘り強く取り組む姿

◎幼児期における姿が小学校にどのようにつながっているのかについて、**具体的な姿**（中学年・高学年の姿も）をもとに共通理解を行うことが大切です。



学習場面の子どもの姿の記録



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、**小学校におけるスタート時の姿**です。

《個人記録：3年国語「町についてしらべてしょうかいしよう」》

A 児の班では、町のじまん発表会で何について発表するか相談することになった。A 児は昔から続く和菓子屋さんの秘密★についてまとめて発表することを提案する★。そのために必要な項目や方法、分担★等をみんなで相談し★★た。図書館の本を使って調べ、地域の方やお店の人にたずねて★記事を書いていた。原稿づくりの中で、「この文章はこう書いた方が分かりやすいよ。「何のことを言っているのか分からないよ。」★など、一生懸命説明をしよう★としていた。しかし、うまく進まないことも多く、気持ちが沈みそうになる様子も見られたが、完成させるため粘り強く取り組んでいた★。

★自立心   ★協同性   ★社会生活との関わり   ★思考力の芽生え  
★言葉による伝え合い

小学校におけるスタートの姿

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
<p>○子どもの姿を10の姿すべてに分類することや個別に取り出して指導することが目的ではありません。</p>			<p>○小学校における姿はそれぞれが分けて考えられるものではなく、関係し合っているものです。</p> <p>○ここでは、上記学習場面の主な姿を取り上げて分類しています。</p>		
<p>◎幼児期において、自発的な活動としての遊びを通して育まれた姿が、各教科等の学習に接続されることが大切です。</p> <p>◎幼児期に身に付けた力が、小学校以降の学びの土台となります。低学年だけでなく、中・高学年、中学校へもつながっています。</p>			<p>全く違うと思っていた園と小学校の教育がつながっていることがわかりました。幼児期に身に付けた力を小学校でしっかりとつなぐことが教職員の役割だと感じました。 *研修参加者の感想より</p>		

## 鳥取県内の幼保小連携の取組



園児が1年生教室の椅子に座り、1年生にいろいろな事を質問しています。



散歩の行き先が小学校校庭。遊具で思いきり遊ぶことで、小学校生活への期待につながります。



中学校の委員会活動を活用して、園児との交流を実施しています。



隣接の強みを生かし、行事や交流活動に加え、出会ったときに声をかけ合うなど、自然な交流が行われています。



里帰り交流を行っています。1年生と一緒に活動することを通して、小学生の姿に憧れたり、協力して活動する喜びを感じたりしています。



幼稚園と保育園で年長児交流を年2回実施。互惠性のある交流にするため、担任間の連携を大切にしています。



秋みつけを年長児、小学校1・2年生が一緒に行います。小学生の姿を手本にして、発表したり、調べたりして、年長児も生き生きと活動します。



委員会を中心として読み聞かせボランティアが保育園で絵本の読み聞かせを行っています。園と中学校が近くにあり、日頃から園児と中学生が交流を深めています。



中学校教員が園の遊びに参加。幼児期の発達を踏まえ、子どもたちの「やりたい」「できるようになりたい」という意欲を引き出す声かけや援助をしています。



1年生と年長児の交流活動。1年生の泳ぐ姿や優しく関わってくれる姿を見て、年長児の小学校への憧れの気持ちが高まります。



小学校教員の保育体験を行い、幼児期の育ちについて学んでいます。



小学校近くの森林で一緒に自然を満喫。帰りに学校図書館で本を借りるなど、何度も学校へ出かけるしかけがなされています。